

拉致問題から考える私達の未来

岐阜市立長良中学校

3年 船戸 海帆

私は、北朝鮮による日本人拉致問題について調べ、衝撃を受けました。特に横田めぐみさんが拉致されたのが、私と同じ中学生の時だったと知り、もし私がめぐみさんの立場だったら、これから何をされるか分からないという恐怖や、もう二度と家族や友達に会えないかもしれないという不安でいっぱいになったと思います。また、めぐみさんのご家族や、他の拉致被害者のご家族の方々は、突然かけがえのない幸せを奪われ、悲しみに明け暮れていたのではないかと思います。

それでも、めぐみさんの無事を信じて何年も活動されてきたご両親に、北朝鮮からめぐみさんが死亡したという報告があっても、受け入れられるわけがないと思いました。勝手な理由で拉致した人を、そんなに簡単に死んだ事にしていいはずがありません。加えて、めぐみさんの遺骨として届いたのが、本人のものではなかったという事実を知り、私は強い怒りを覚えました。人の命を軽く扱いすぎています。拉致被害者のご家族の気持ちを考えれば、このような人をバカにするような行動は絶対にできないと思います。

しかし、人の命や死、人権について深く考えていないのは、今の中学生にも共通していると思います。学校生活の中で、心ない言葉や不快に感じる言葉を時々耳にします。そんな言葉を使う人は、自分の発言で相手を傷つけることができってしまう事、その言葉がもつ意味などをよく理解して、言葉の使い方を考え直すべきだと思います。でもそれだけでなく、それを聞いた人が、その言葉を本気にせず、聞き流していることも改めるべき点だと思います。人を傷つける心ない言葉が、誰からも注意されない事で、軽々しく使える言葉になってしまうのは問題です。だから、もう一度全員で人権について考える機会が必要だと思います。

そのために私は、北朝鮮による日本人拉致問題を始めとする、人権を侵害するような出来事を調べて、広めていきたいと思っています。きっと過去にあった様々な人権問題を知っている中学生は、あまり多くありません。なぜなら私達が生まれる前にあった事だったり、日常生活の中でそれらを知るきっかけが少ないからです。だから私は、これまでに起きた人権侵害問題をより多くの中学生に発信していきたいです。少しでもこの問題に関心をもてば、それぞれがもっと詳しく調べていくきっかけとなり、一人一人の人権について考える機会になると思います。現在でも女性に対する差別や、障がいのある人への偏見など、人権を侵害する問題は身近に起きています。でも、中学生の時に人権を大切にする意識を高めていれば、社会に出ても差別なんてしないと思います。差別や偏見のない、互いの人権を大切にしよう未来を私達が作りたいです。